

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2013.8-2015.7)

## 2013年度第1回理事会 議事録

日時：2013年10月20日(日) 10:00~13:00

場所：株式会社メディカルトリビューン8階 会議室

【出席者】理事19名、監事2名(敬称略・五十音順)

理事長：安河内聰

副理事長：角秀秋

理事：小川俊一、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、佐地勉、佐野俊二、白石公、住友直方、土井庄三郎、富田英、中西敏雄、丹羽公一郎、檜垣高史、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：新垣義夫、八木原俊克

幹事：鮎沢衛、深澤隆治

オブザーバー：福寫教偉

### 1. 安河内理事長あいさつ

- (1) 定款26条2項により議長となる。
- (2) 理事会成立の確認：定款27条2項により定足数は理事総数20名の2/3である14名であるが、19名の出席があり、理事会は成立する旨佐地総務担当理事より報告があった。
- (3) 議事録署名人選任：定款30条に基づき住友直方、土井庄三郎両理事の選任を諮り、異議無くこれを可決した。

### 2. 委員会活動計画・報告・審議事項

#### 1) 移植委員会(福寫委員長) (資料1)

法改正後の現況

- 150例中5例 中学生未満3例。
- RCMは海外に行っている。
- 一般への啓発をさらに進めたい。‘いのち’の教育 小中学校
- 各地域で先生方の講演の際に内容として追加してほしい。
- 教育ツール(モデルスライドなど)提供可能。
- 60施設が臓器提供可能 本年再アンケート予定。

- 法改正以後は、前向きな勉強会が減っている。
- 市民公開講座の開催奨励を。

移植医療社会基盤に関する研究（厚労科研：中西班長）が発足

- CHD での適応。
- 対象者のフォローアンケート。

施設認可について

- 女子医大
- 九州大学と福岡こどもの連携で申請。必要事項を明記して申請を。

補助人工心臓の進捗状況

- ベルリンハート 3 か月は効果確認。
- 保険収載近い。
- ハートウェア（Jarvik 埋め込み型人工心臓）実用化で退院可能となる。

移植後 QOL へのケア

- 免疫抑制剤副作用などでの思春期の問題
- サマーキャンプへの参加、移植前の児をもつ親にも呼びかけを。

(中西理事)

- 命の教育 学界全体でマスコミにも普及呼びかけしたい。
- 補助循環 補助人工心臓協議会でも討議中。

(佐地理事)

- 資料の提供を。福嶋先生に依頼可能か。説明方法も。

(佐野理事)

- 小児病院で移植できる方向の検討必要ではないか。(欧米では小児病院で移植している) 成人ができないと不可というのは要検討。
- 何が必要なのかをはっきりさせないと日循を動かして許可を得るのは難しい。

⇒具体的な方法を準備作成の上、日循、厚労省へ上申できるように。

(安河内理事長／福嶋先生／佐地理事／小川理事)

- 模擬授業の開催（学術集会時）。
- 地元の医師ができるような方向を。
- 指導の医師が必ずしも同じ方向性の話をするとは限らないので、模擬授業などを受けてもらう必要はある。
- 中西先生と福嶋先生で模擬授業の内容を相談。

## 【議事】

- ‘いのち’の授業実施の方向で整備を進めることについて：賛成多数で承認された。
  - 委員会に委員以外を含めることもあり得る。
  - 評議員に賛同可否についての意思確認をする（アンケート）。
  - HPでの広報を行う。
  - 模擬授業の実施・教育ツールの整備等を行う。
  - 具体的な進め方について福寫先生と中西先生に案を作成してもらい次回理事会までに提出してもらう。
  - 教育委員会および学校から依頼しやすいように、学会HP上でいのちの授業が可能な施設について紹介する。
- 移植委員会へ非会員の先生がオブザーバーとして入ることについて：賛成多数で承認された。
  - 臓器提供関係（植田先生・岡田先生）
- 学術集会での移植関係シンポジウムの継続的施行について
  - プログラム委員会で検討することが決定した。
- 市民公開講座の学会による後援について：賛成多数で承認された
- 小児心臓移植医療の体制整備を進めることについて：賛成多数で承認された。
  - 中西班（小児心臓移植医療の社会的基盤に関する研究）にて検討後、具体的な（案）を理事会へ提出・審議、最終的には理事長名での要望書を日循へ提出する。
  - 小児病院での実施：必ずしも連携しなくても可能な方向も必要。
  - ベルリンハートの経験必要。今後3年間で進める。
- アンケート結果（資料1・小児臓器提供施設に関するアンケート）を日本小児循環器学会HPへ掲載することが決定した。

## 2) 将来計画委員会（安河内委員長）

- 理事の立候補／推薦制：  
立候補理由記載もする方向が望ましい。次回理事会までに新たな理事長選挙の方法について案（細則の改訂案）をまとめて理事会に諮る。（担当安河内理事長） 来年の総会で承認可決が得られるように

まとめる。

### 3) 学術委員会 (小川委員長) (資料2)

- 留学希望者(江畑亮太先生) メール審議後学会推薦状を作成した。
- ガイドライン整備：  
小児の心不全ガイドラインは本年いっぱいでもとまる予定。  
心臓検診のガイドラインをまとめる。  
⇒日循のGL改訂に含めていく。  
今後のガイドライン整備について中期的な計画を作成する。
- 各種の Award 応募推進:日循、心臓病学会への応募少ない 早めに  
広報を。  
(安河内理事長) 年間の Award 応募日程カレンダー作成を。  
(小川理事) 関係学会の日程カレンダーも作成したい。(学会開催日が  
重複しないように)
- 留学推進制度の推進: 国外留学の際に日本小児循環器学会からの推  
薦状を交付し、留学の援助を行う。

#### 【議事】

- 50年の歴史をまとめる(50周年誌作成):賛成多数にて承認された。
  - 日本心電学会, ESC の刊行物参考に。歴代理事長の執筆など検討。
  - 予算は特別予算を組んで対応することを考える。
  - 特別委員会設置も検討(小川委員長に案を出していただく)(佐野理事) 来年の学術集会でも企画: 写真, 記録など展示したい。  
⇒細部を委員会で検討。
- 各種 Award 応募日程カレンダー・関係学会日程カレンダーを作成  
し学会 HP へ掲載することが決定した。

### 4) 教育委員会 (鎌田委員長) (資料3)

- 教育セミナーについて:
- 26年アドバンスコース予定  
11月8、9日 榊原記念ホール 朴先生に企画依頼  
宮田財団への助成金申請を検討中。  
予算約500万円(過去2年の例から)
- 26年度初級コース(第50回学術集会時)

- (1) 講師はできるだけ旅費の不要な方を。
- (2) 学会員以外、医学生、小児循環器，小児科医になる前の段階の研修医などをリクルート目的として対象としてはどうか。(参加費は払うが、学会参加費は免除) → 承認
- (3) セミナーのテキストの価格検討。

#### 【議事】

- 学会員以外の教育セミナー参加について：賛成多数で承認された。
- e-learning 導入について：賛成多数で承認された。
  - 担当は、教育委員会（+専門医制度委員会、広報委員会）
  - 学会員の要望を確認するためにメールでアンケートを行う。
  - 今後の検討事項
    - (1) どのような目的で行うかが重要：
      1. 講義を残す。
      2. 専門医に絡める。
      3. 安全講習
    - (2) 視聴のみか、双方向性の採点（専門医単位付与）など加えるか要検討。
      - ⇒ 段階的にステップアップするのが現実的ではないか。
    - (3) 予算の見積もりと予算確保

(丹羽理事より：成人先天性心疾患学会の e-learning をもとに)：

1. 予算 講演のビデオ撮影 1 件につき 10 万円前後
2. 学会の記録としても利用価値あるのでは。
3. 専門医制度での教育ツールとして。
4. 医療安全講習ツールとして。
5. 1 編の時間は 5~15 分くらい。

(中西理事) 各学会でのアクセス数を調査。

(佐野理事) 学生にも人気ある。講義の準備としても利用できる。

#### 5) 遺伝子疫学委員会 (山岸委員長)

- 遺伝子医療情報の学会員への提供。学会 HP へ掲載し、疫学委員会 HP へリンクを行う。
- 小児期発症心疾患実態調査 一旦中止後、調査の是非について検討。
- 疫学調査の問題点と解決策。

- 疫学委員会で集計したデータの二次利用方法について次回理事会までに案を作成して提出することになった（担当山岸理事）  
（安河内理事）
- 実態調査は全施設調査としたから頓挫してしまった。定点観測／抽出法が有効ではないか。→ 保険診療調査も含め定点観測施設の選定を評議員および地区を参考に行い依頼することになった。
- 中止された JRPHD のデータをどう保管するのか、データ二次利用も含めて倫理委員会とも連携することが必要。具体的なデータ二次利用方法について疫学委員会と学術委員会で案を作成してもらい、倫理委員会にて審議を行う。
- 調査報告の際には、貢献度が高い調査協力者の名前が出るようにすべき。（佐地理事）→承認
- このような多施設研究などのデータ利用方法と authorship についてある程度統一したシステムが必要→ 学術委員会で原案作成してもらう。

#### 6) 形態登録委員会（西川委員長 代 安河内理事長）

- 安藤先生のスライドを電子化する作業中。
  - 学会の共有資料として保管、利用できないか検討する方針。

（佐地理事：女子医大の許可が必要では？）

電子化された資料の学会としての利用については、東京女子医大の循環器小児科の利用承認許可が必要のため中西理事と相談することになった。

- 貴重症例標本のモデル化については、具体的な方法と予算について見積もりを作成して理事会にかけることになった。（白石理事）
- スライドを公開する時には倫理委員会の許可が必要。倫理委員会で指針について検討して案を作成してもらう。

#### 7) 稀少疾患調査委員会（市田委員長 代 安河内理事長）：事前配布資料より抜粋

- 小児循環器領域の稀少疾患サーベイランス調査を継続する
- これまでのデータを基に、各疾患の2次調査を行う

- 2006-2015の10年間のデータを基に、わが国の希少疾患の総括を論文化する。
- 希少疾患のデータを、HP上で閲覧できるように整備する。
- 小児期心疾患データベースとのリンクに向けて、検討していく。

#### 8) 小児慢性疾患事業対策委員会 (中西委員長) (資料4)

(小児科学会担当理事は松井先生、井田先生)

- 改訂により申請書の簡便化を図った。
- 診断基準、ガイドライン作成 松井班へ提出予定。
- 今後小児慢性疾患認定側に小児循環器関係者が入れるように運動する (中西理事)

(賀藤理事) データベース化：信頼性に問題。(医師が入力していない。)

(安河内理事) 医師以外の職員でも入力できるように病名のコード化することも検討を。

- 次回理事会までに具体的な案について作成して審議する予定。

#### 9) 用語委員会 (村上委員長 代 安河内理事長)

- 関連学会からの要請に応じて検討を行う。

#### 10) プログラム委員会 (丹羽委員長) (資料4)

- 評議員へ依頼したプログラムへのアンケート閲覧
- 詳細は 理事会後のプログラム委員会で検討して報告

#### 11) 学会雑誌編集委員会 (白石委員長) (資料5)

- 経費節減のため online 化を検討。
- 英文雑誌の発刊について (Medical Tribune 小林様より説明)
  - 現在の予算内で発刊をはかる
  - 完全 On line Journal、部分的 online 化、和文誌の発刊を減らして英文誌を発刊、徐々に発刊回数を増やすなどの提案がされた。
  - PubMed Central (PMC) への掲載はすぐに可能だが、英訳が必要。将来的には Pub Med へ移行も考慮→具体的な手順と条件を確認する必要あり

- 編集委員会を通してからの決定となるので、1 月理事会前に案をとりまとめて報告を。
- Impact Factor をとるように検討を。
- 学会誌の今後のあり方については、編集委員会で検討して予算も含めて案をまとめて理事会に報告することになった（担当白石理事）
- 学会誌のバックナンバーPDF 化について （資料 14）
  - 2002 年以後は完了。

#### 【議事】

- バックナンバーPDF 化について：満場一致にて承認された。
  - 2001 年以前のバックナンバーの PDF オンライン化に際して欠番あり（資料 14 p. 47）、補充可能な会員に依頼を行う。
  - 経費 80 万円とのことだが、見直しを。（担当白石理事）

#### 1 2) 広報交流委員会（中西委員長） （資料 6）

- AHA、AEPC 若手の交流。  
 本年は、JSPCCS, から AEPC へ 2 人短期研修（1 ヶ月）派遣。AEPC からは 2 人国立循環器病センターと長野県立こども病院に派遣受け入れの予定  
 来年もこの交換短期研修制度は学術委員会と協同して継続する予定  
 →短期研修利用者には、報告を学会誌に掲載してもらうこととする。
- APCCS への参加を推進。
- 海外医療支援については、J I C A を含め学会として何が可能か調査し、理事会に報告する。

#### 【議事】

- HP 改訂について：賛成多数にて承認された。
  - 英文ページ含めて全面改訂を行う：賛成多数にて承認された。
  - 時期：今年度から可及的速やかに着手を行う。出来れば来年 7 月までには改訂を終了させる：賛成多数にて承認された。
  - 予算は：特別会計とする。
  - 各委員会から内容を提出する。掲載希望コンテンツについても広報委員会へ提出を行う。また広報委員会から必要なコンテンツに関して関係委員会に作成を依頼する



- 60～130 万円必要か。(協和企画/MT)
- 理事の写真掲載
- HPは会員向けと一般向けの2つの version を作成して、学会の活動を具体的に一般にも周知する形式にする。また会員向けでは、データベースの利用や e-learning など会員である利点がある形にする。海外からのリンクやアクセスが容易になるよう英語のHPも改訂する。

(富田理事) 専門医評価認定機構から専門医についての一般に向けての記載を求められているので、その内容を示す記載があると良い。

### 1 3) 学校心臓検診委員会 (住友委員長)

- 「器質的心疾患を認めない不整脈の学校生活管理指導ガイドライン」  
学会誌 11月号に掲載。
- 「学校心臓検診に関連した心電図基準値の見直し」の作成中
- 日循 GL(2008年長嶋委員長)の改訂に統合ガイドラインを含める  
⇒ 英語版作成

### 1 4) 専門医制度委員会 (富田委員長) (資料7)

- 専門医試験日程について
  - 2013年10月27日
  - 2014年10月26日
- 修練施設認定基準の再検討必要か。専門医制度委員会で検討後理事会に改正案を提出。

### 1 5) 保険診療委員会/臨床試験委員会/薬事委員会 (賀藤委員長) (資料8・10)

- 侵襲的検査時の深鎮静の保険加算申請するため、深麻酔の指針を小循環学会として作成：外部評価委員の意見必要。
- 診療保険点数新規採用を申請
- 保険適応申請のため、理事・評議員のいる施設の中から保険診療状況調査などの協力施設を地域性も含めて選出し、症例数や診療実績などの統計報告が速やかに出来るようなシステムを構築。次回理事会までに保険診療委員会で具体的な施設案をとりまとめて提出(賀藤委員

長)

● 臨床治験／試験 ネットワーク

中央 IRB 設置 GCP 準拠

- 小児治験ネットワークに加盟する事を推進したい。
- ようやく体制が整い、治験の依頼が来るようになった。
- Good Clinical Practice に準拠するため、中央で IRB が通れば小児治験ネットワークに参加するとネットワークと病院との契約により IRB 不要になる。
- 病院との契約必要。

【議事】

- 小児治験ネットワークの会員への広報について：賛成多数にて承認された。
  - 保険診療委員会で具体的な手続きについてまとめた上で学会 HP や会員 ML にて広報を行う。
- 深鎮静の指針を学会誌へ掲載：
  - 学術委員会にて改めて指針を確認することが決定した。

1 6) 医療安全委員会 (檜垣委員長)

- 医療安全セミナー：  
来年の学術集会で航空会社の安全システムを紹介する講義実施予定

1 7) 医療材料・機器委員会 (富田委員長) (資料 9)

【議事】

- Occlutech 社製 ASD 閉鎖セットの新規承認要望書 (ライフライン社) を学会から出すことについて：賛成多数にて承認された。
  - 要望書の提出を行う。

1 8) 地方会委員会 (小山委員長)

- これまでなかった地方会委員会規約を制定する。
- 地方会認定作業をおこなう。
- 新専門医制度が明らかになった後、50 の地方会中、財政的独立は 3 つのみ。
- 今後どのような形で運営するのがよいのか、委員会で案を出しても

らう。

#### 1 9) 顕彰委員会 (三谷委員長) (資料 11)

- 功労賞や Case Report Award などの創設を検討する。(承認)
- 予算をどうするか検討し、次回理事会までに報告 (三谷理事)
- 学術委員会が管理する日循の Award の推薦などは今後顕彰委員会に任務移管する方針となった。

#### 2 0) 倫理委員会 (土井委員長)

- 倫理審査申請書
- 審査結果通知書
- 学会として理事長名で倫理に対する指針を明記する必要がある。
- 倫理指針の見直しについては倫理委員会で立案し、次回の理事会に提案することになった。(担当土井理事)

#### 2 1) 蘇生委員会 (三谷副委員長) (資料 12)

- 院外心停止の実態調査について  
(安河内理事長) 登録方法を明確に。具体的な提案を次回理事会までに用意していただく (担当三谷理事)

#### 2 2) その他審議事項

- 患者等・非医療従事者の入会希望の件 / 社団法人への移行について (資料 13) : 暫定的処置として定款施行細則へ [賛助会員 (個人 / 5,000 円) ] を追記する事が承認決定された (次回総会時に承認を得る)。同時に今後も社団法人への移行を改めて検討することが決定した。
  - ネットを中心とするメディアなどに不適切な情報が流れるなどの懸念あり。
  - NPO 法人である限り入会を拒む基準を作ることは難しい。
  - 一般社団法人または公益社団法人への移行を今後も検討。ただし、このためには定款の全面的な改定、NPO 法人としては一旦解散した上で再度社団法人の立ち上げを行うなど、学会としての財産の移行方法など解決すべき問題が多い。

### 23) 学術集会会長について

- 佐野先生 第50回:2014年7月3日～5日 岡山コンベンションセンターにて開催予定。
- 佐地先生 第51回:2015年7月16日～18日 お台場にて開催予定。
- 第51回以後の学術集会会長立候補は現時点で6名。新たな立候補者は12月までに事務局へ届出を出すよう周知された。

### 24) その他

- (白石理事) COIの審議担当者を決める必要あり。  
→ 利益相反委員会の設置も含め次回理事会までに検討(安河内理事長)
- (佐地理事) 50周年を記念して日本人による Ped. Cardiology の textbook を作りたい。→具体的な案について学術委員会とも相談の上再度提案してもらう。
- 次回理事会は1月18日(土)、19日(日)のどちらかにて開催予定。
- 今回各担当委員会で次回理事会までにまとめるべき提案については、次回理事会前に資料を作成し提出することを確認。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2013年10月20日

議 長 安河内 聡

議事録署名人 住友 直方

議事録署名人 土井 庄三郎

(記録 幹事: 鮎沢 衛、 深澤隆治)